

元気なまちかど

No.1 忍法蹴球の術

なでしこリーグ1部公式戦
なでしこリーグ1部で活躍する「伊賀フットボールクラブくノ一」のホームゲームが、5月28日と6月12日、水口スポーツの森陸上競技場で開催されました。5月28日の試合前のセレモニーでは、中嶋市長が選手たちを出迎え、市内の園児がエスコートキッズを務めるなど、心待ちにしていたなでしこリーグの試合を会場全体で歓迎しました。

両日とも、市内外からたくさんの方々がスタンドに詰めかけ、プロ選手の華麗で迫力のあるプレーに大きな声援を送っていました。



▲試合前のセレモニー

No.2 ユース・プラス・フェスティバル 市内中学生の音の共演

市内7中学校の吹奏楽部が一堂に会して演奏を披露する「ユース・プラス・フェスティバル2016」が6月4日、あいこうが市民ホールで開催されました。

この演奏会は、各中学校の生徒が互いの演奏を聴くことができるまたとない機会となっています。演奏前の学校紹介から各校が特色のある挨拶で観客を迎え、定番の曲からオリジナル曲まで日ごろの練習の成果を披露しました。

最後の、3年生部員による合同演奏「上を向いて歩こう」では、ホール全体に素晴らしいハーモニーが響き渡りました。



▲練習の成果を披露する部員

No.3 未来に向けて残したい 「ササユリ」を里山に復活

市の花に指定されている「ササユリ」は、6月上旬になると、地域の里山のどこにでも咲き誇る風景がありました。しかし、最近では、里山の荒廃などにより、自然に咲く姿を見ることは珍しくなりました。その風景を再現する取り組みが地域で行われています。

甲賀町滝区でも子どもたちにササユリを知ってもらうため、見学会を催しました。

子どもたちは、うすいピンク色の花びらの美しさや香りを堪能していました。



▶ササユリを鑑賞する子どもたち



▲忍者衣装で挑戦する初級受検者

No.4 手裏剣投げや忍者問題に挑む 第9回甲賀流忍者検定

忍者にまつわる幅広い知識を競う「第9回甲賀流忍者検定」が6月12日、忍の里プラザで開催されました。

初級、中級、上級に、北海道や広島など全国から過去最多の148人が参加しました。初級は、筆記のほか、手裏剣投げや吹き矢の実技も行われ、忍者姿により加点されるとあって、約8割の人が赤や黒などの衣装で挑戦しました。

午後には、徳川家康公没後400年記念講演会「徳川家と甲賀衆」があり、多くの忍者ファンが熱心に聞き入っていました。

であいこうが

DEAI KOKA

INTERVIEW



目標がある“楽しさ”
うだひでき
宇田秀生選手

今回は、国際トライアスロン連合のPT3部門（四肢欠損など中度の障害のある選手）世界ランキング7位の宇田選手にお話を伺いました。仕事上の事故で右腕を失い、昨年6月の初レースから1年足らずでナショナルチームに選出され、急成長を遂げている期待の選手です。

▶事故後入院時の心境は？

入院中は、右腕を切断したにもかかわらず、あるはずのない腕に痛みを感じる幻肢痛に悩まされました。生死にかかわる大怪我でしたが、日々回復するにつれ、後悔よりも「何かをしたい」という前向きな気持ちが大きくなりました。



▲表彰台に立つ宇田親子

▶パラトライアスロンを始めたきっかけは？

事故後5か月目、リハビリの一環として泳いでいたプールで、偶然障がい者のスイミングチームとの出会いがありました。そのチームのメンバーから、障がい者水泳大会への出場をすすめられ、初めて出場した50mバタフライと自由形で優勝しました。その後、メンバーのすすめもあり、昨年パラトライアスロンの競技を始めました。偶然も重なっていますが、人との出会いにより今の自分があるので、出会いに感謝しています。

▶今後の目標は？

2020年の東京パラリンピック出場です。まだ、始めて1年ですが、バイクに乗る姿勢や競技の駆け引きなど学ぶことが多く、自分が成長していくことを楽しみ、目標に向かって強くなりたいです。目標を持つことや前向きでいることで、日々の生活が楽しくなると考えています。ゴールラインでいつも待っている息子に前向きに取り組んでいる姿を常に見せられたらと思っています。



▼バイクを片腕で操る宇田選手